

(学年)第1学年、(教科・科目)家庭科・家庭総合

個別学習

(単元)消費行動を考える

(本時のねらい)

多様化する販売方法や支払い方法、契約について理解する。(知識・理解)

消費者トラブルについて関心を持ち、解決方法を考える。(関心・意欲・態度)

(ICT活用方法)

消費者庁が作成した「デジタル消費生活へのスタートライン」のプレゼンテーションソフトを活用して、多様な契約方法や支払い方法の現状について、また、これらが原因で発生する可能性のある消費者トラブルを具体的に示し、デジタル化による利便性とトラブル、解決策について理解を深めさせたいと考えている。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 自分が行ったことのある契約や購入方法について考え、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような契約方法で、どのような支払い方法をしたか発表させる。また、その際、困ったことやトラブルについても発問する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 例1. SNS広告で見つけ、1回だけの契約つもりだったが、商品が引き続き送られてくる事例のトラブルから原因と適切な行動を考え、発表する。 例2. 個人情報流出する事例のトラブルから原因と適切な行動を考え、発表する。 消費者を守る制度について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> トラブルが発生した原因や契約前後の適切な消費行動を考えさせる。 トラブルが発生した原因や契約前後の適切な消費行動を考えさせる。 消費者を守るための制度や法律、消費生活センターについて示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者庁作成「デジタル消費生活へのスタートライン」のプレゼンテーションソフトを用いて、多様な契約方法や支払い方法の現状、また実生活で遭遇する可能性のある消費者トラブルの事例を示す。

<p>まとめ 5分</p>	<p>・本時のまとめと、生活における消費者トラブルの解決と適切な行動ができることを確認する。</p>	<p>・消費生活センターや消費者ホットライン（188）を活用することを伝える。</p>	
-------------------	--	---	--

(授業の様子)



使用したプレゼンテーションソフト

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

多くの生徒が、インターネットでの購入経験があることで、購入や契約のデジタル化が生活の一部になっていると気づいた。これと比例して、トラブル経験も増加していると考えられる。プレゼンテーションソフトの例から契約など場面を示すことで、生徒は具体的に想像しやすくなり、よく考えることができていた。今後は、授業におけるトラブル事例を選択する際に、より生徒の実生活に即した事例を選び、さらに適切な消費行動につながるよう役立てていきたい。